

B-41 各種樹脂加工布の防しわ性について

日本女大家政 ○増子富美 青木千賀子 中西茂子

目的 樹脂加工における樹脂剤と繊維の種類又は加工条件のちがいによる防しわ効果の比較、市販布における繊維別の傾向、遊離ホルムアルデヒド量との関係、並びにこれら樹脂加工布の耐洗たく性と耐薬品性を比較するため次のような検討を行なった。

方法 綿100%、レーヨン100%、綿35%/ポリエステル65%混紡布に対して、尿素系、メラミン系、グリオキサル系、三種類の樹脂剤を用い、JIS L-0885にもとづき、加工条件を種々変えながら樹脂加工を施した。こうして得た調製樹脂加工布と、各種繊維の市販樹脂加工布とをそれぞれ繰返し洗たく(1~20回)し、これら処理前後の防しわ率、遊離ホルムアルデヒド含有量を測定し、樹脂剤の種類並びに樹脂剤の種類と繊維の種類の適合性、加工条件などによる防しわ率及びその効果の違いを比較検討した。

結果 同じ樹脂剤でも加工を施す繊維の種類と加工条件により防しわ性の向上率耐洗たく性、耐薬品性、ホルムアルデヒドの遊離量が異なった。加工条件に関しては、防しわ率、ホルムアルデヒド遊離量など樹脂加工布の物理化学的性質に関係するのはキュアリングの温度と時間であった。市販樹脂加工布における防しわ率及びその耐洗たく性、耐薬品性は、樹脂剤、繊維の種類により、異なった結果を示した。